

勝連城の時代区分

歴史家は、発掘調査で発見された建物や陶器などの遺物に基づいて、勝連城の歴史を5つの時代に分けています。これらの遺物は、かつてここに住んでいた人々の生活様式と文化、そして海外との接触の証拠を示しています。

第 I 期: 最初の定住

12 世紀より前

先史時代の陶器が出土していることから、12 世紀以前に勝連に人が住んでいたことが伺えます。後期貝塚時代と呼ばれるこの時期、琉球の社会は徐々に大きな集団を形成していきました。より正確な年代測定を行えるこの年代の遺物は他に見つかっていません。

第 II 期: 最初の要塞

12 世紀から 14 世紀

12 世紀から 14 世紀にかけて勝連では最初の要塞が作られました。土と石灰岩の砂利が丘の上まで運ばれ、平らな地盤をつくるために使われました。この地層からは、木でできた防御柵の遺構と小さな木造の建物群が発見されましたが、石垣はまだ築かれていませんでした。地元で作られた陶器や、13 世紀の中国宋時代の陶磁器も見つかっており、当時海外貿易がすでに活発であったことを示しています。ジュゴンの骨で作られたサイコロや碁石、さまざまな鉄の道具は、居住者が娯楽を楽しんでいたことを示唆しています。

第 III 期: 黄金時代

14 世紀初期から中期

この時期には整地と石壁の建設が進められました。勝連城は最終的な姿に近づいていきました。歴代の城主は海外貿易を拡大し続け、発掘調査ではこの時期のものである大量の中国製の陶磁器、貨幣、玉などの輸入品が発見されました。

第 IV 期: 安定

14 世紀後期から 15 世紀

勝連城はこの時期に最終的な姿になりました。阿麻和利が城の支配権を握り、安定と繁栄の時代をもたらしました。二の曲輪の内側に設けられた石と土の基壇の上に、洗練されたつくりの大きな瓦葺の祭祀用殿舎（社殿）が建造されました。勝連と中国、日本、韓国、その他の海外地域との貿易はピークに達し、扱われる高級品の数も増えていきました。14 世紀末から 15 世紀初頭に作られた中国の青磁などの陶磁器が大量に出土し

ています。高価な壺、花瓶、瓶などの貴重な品々も発見されました。剣や矢じり、鎧の破片は、軍備の存在を証明しています。勝連のこの時期は、1458年に阿麻和利が敗北し、城が燃やされたことで終わりを迎えました。

第Ⅴ期: 衰退

15世紀後期以降

1458年の阿麻和利の死後、勝連は軍事要塞ではなくなりましたが、城はその後もしばらく使用され続けました。しかし、誰がどのように使用していたかは正確には分かっていません。発掘調査により、中国の明時代に典型的な15世紀以降に作られた陶磁器が発見されました。見つかった陶磁器の中には、青磁だけではなく染付も含まれています。今日でも勝連にある数多くの御嶽で祭祀が続けられています。